

# 軽量、サイズ変更に対応

# 土木ブロック販売

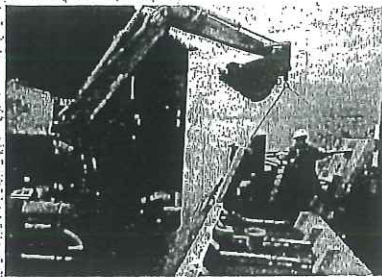
## 生産能力5倍 防災に的

コンクリート製品製造の四万十コンクリート

(高知県四万十町)は強度が高く軽量の建築・土木用ブロックの販売を強化する。生産能力を5倍に拡大し、生産、販売のための人員も拡充する。同社のブロックは製品の

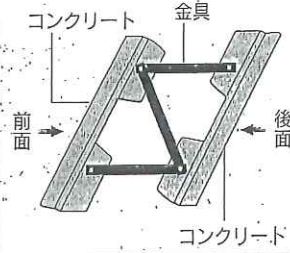
**四万十  
コンクリート**

前面と後面のコンクリートを鉄骨でつなぐ特殊構造で、奥行きを自由に変えることができる。道路ののり面や河川の護岸工事などに活用でき、防災や災害復旧向けに需要拡大が見込めると判断した。



土木ブロック「ガーディアン」は軽量ながら強度も確保している

ガーディアンは2つのコンクリート製品を金具でつないでいる



開発中の製品の生産などあわせて設備投資に2億円をかけた。これまでに最大月に100個だった生産能力は5倍の500個まで引き上げた。増産のための要員も4月に2人を雇用し、さらに2016年3月までに1人増やす。年間売上高は15年6月期の2500万円から1億円に増やし、3年以内に3億円に拡大することを目指す。

販売拡大に当たって県・市町村や建設コンサルタント会社への営業を強化する。自治体で土木関連部署経験者を既に1人雇用しており、年度内にさらに設計段階から工事計画に関わる人材を1

人増やす方針だ。

同社の建築・土木用ブロック「ガーディアン」は前面と後面を6本の鉄骨でつないだ構造。重量は1・1トで、奥行きが1・1メートル、奥行きが1・1メートルの場合、一体成型する従来型のブロックに比べて0・8ト軽い。縦1・1メートル×横1・7メートル、奥行きは鉄骨の長さを調整するだけで50センチ以上なら自由に変えられる。道路ののり面工事などで奥行きを違うブロックが

必要なきでも柔軟に対応ができる。従来製品ならば、別々のサイズを製造する必要があり、規格外の場合は型枠から用意しなければならなかった。ブロックを積み上げた後はコンクリートを流し込んで、擁壁として固めることになり、支えの鉄骨が強度確保の役割を果たす。矢野武志社長は「軽量なためクレーンなどの作業が容易になるだけでなく、

サイズ変更にも柔軟に対応できる」と話す。大型の台風や集中豪雨などの天候不順により、土砂崩れなどの事故も増えている。防災や災害の復興・復旧のための公共工事は今後も伸びるとみられており、ガーディアンを主力製品に育成する。

四万十コンクリートの15年6月期の売上高は2億8000万円。16年6月期は4億円前後を目指している。